



全国B型肝炎訴訟北陸原告団・弁護団  
〒920-0931 石川県金沢市兼六元町 9-40  
金沢合同法律事務所  
発行日：2015年4月15日 第3号

連絡先 富山 076-423-2466 富山中央法律事務所／金沢 076-221-4111 金沢合同法律事務所／福井 0776-30-1371 泉法律事務所

## 「オール北陸肝炎サポート大集会」を開催しました！

平成27年2月21日、金沢市の北國新聞赤羽ホール（交流ホール）において、『オール北陸肝炎サポート大集会』を開催しました。

この集会は、すべてのウイルス性肝硬変・肝がん患者に対する医療費助成制度の早期実現を求め行われました。

参加者は137名で、会場は満員。自由民主党広報本部長で石川1区選出の馳浩衆議院議員をはじめ多数の県議会議員、市議会議員の先生方にもご参加いただき、また、メッセージ等をお寄せいただきました。

集会では、まず、原告団代表川上ゆきえからご挨拶を差し上げた後、北陸地域に先行して集会を開催していた北海道原告団・名古屋原告団から、集会のシンボル「オレンジフラッグ」の引き継ぎを受け、次の開催地である中四国地域に引き継ぐことをお約束しました。

その後、「肝硬変・肝がん患者の現状」について、座談会を開催。代表の川上のほか、肝硬変・肝がんを患う原告3名の方に参加していただきました。72歳女性の肝がん患者は、認知症の夫を抱え年金生活の中、肝がんが発症してから3年間で約150万円の医療費を自己負担している実情を吐露されました。また、41歳男性の肝がん患者は、妻と2人の幼子を抱え、住宅ローンも背負いながら、過酷ながん治療のため正社員の仕事を辞めざるを得ない状況に追い込まれ、現在は、契約社員として働いているなどと話され、さらに、43歳男性の肝硬変患者は、吐血等を繰り返す肝硬変により就職することも出来ず精神的にも追い込まれ、10年近く引きこもりの状態になってしまった過去を話されました。肝硬変・肝がん患者が、医療費の自己負担という支出面だけではなく、収入や精神面でも大変大きな苦勞を抱えている実情が明らかになり、肝硬変・肝がん患者に対する医療費助成制度がどうしても必要であることが明らかになりました。



そして、肝臓専門医である清水元茂医師（福井市）から、「肝硬変・肝がん患者の現状と治療法」と題してご講演をいただいた後、ご来賓の馳浩衆議院議員や下沢佳充元石川県議会議員をはじめ、白山市、高岡市、福井市の各市議会議員から心強いご挨拶をいただき、また、残念ながらご参加いただけなかった議員の先生方からお寄せいただいたメッセージが紹介されました。



マスコミ各社の取材もあり、肝硬変・肝がん患者のために医療費助成制度が一刻も早く必要であることが社会に十分伝わった集会となり、集会としては大成功でした。また、原告団・弁護団が共同作業で集会の運営にあたり、原告団・弁護団の絆がさらに深まった点にも大きな意義があるのではないかと思います。

厚生労働大臣は、原告団・弁護団との協議の場において、医療費助成制度を5年以内に開始する意思を表明し

ているものの、まだまだ予断を許しません。

この集会を機に、医療費助成制度の実現に向けて、さらに取り組みを強めていかなければなりません。これからも原告団・弁護団、一致団結して取り組んでいきましょう！

（弁護士西山貞義）

## 【白山市議からの寄稿】「医療費助成制度」実現に向けて、共に頑張りましょう！

白山市議会議員 安実隆直

先般開催されました「オール北陸肝炎サポート大集会」のご盛會を心よりお喜び申し上げます。

集会では、肝硬変・肝がん患者の現状ということで、4名の生々しいご病状のお話や、日々、肝炎と闘いながら暮らされている状況をお聞きいたしました。また、肝硬変、肝がん患者の現状と治療法のご講演など、私自身も大変勉強になるよい機会となり感謝申し上げます。

皆様方のご苦勞やご負担を想うとき、改めて国民的理解を得ながら医療費助成・生活支援の実現に向けた取り組みを今後ともご支援しなければならぬと実感いたしました。

白山市議会では、平成26年定例会6月会議において、医療費助成の拡充を求める意見書を採択し、国及び政府に提出いたしました。さらに支援の輪が広がり、声が届くよう地方議会としても応援してまいります。

このような全国的な運動により、皆様のご努力が実を結び「医療費助成制度」が実現する日が来るよう共に頑張りましょう！

## 医療費助成制度実現等に向け「請願署名活動」にご協力を！【出来るだけ4月末までに】



原告団・弁護団では、関係団体と共同で、すべてのウイルス性肝硬変・肝がん患者にかかる医療費助成制度創設と、肝炎ウイルス検査未受検者に対し、一層の受検推進等の取り組みを求めるべく、請願署名活動を行っています。

昨年も、請願署名活動に取り組み、240名を超える国会議員に紹介議員になっていただくことはできましたが、残念ながら国会請願は採択されませんでした。しかし、我々の運動の結果、政府は、肝機能障害による身体障害者認定基準の緩和に向けて動き始め、さらに、厚生労働大臣は、「5年以内に医療費助成を開始する」旨発言するなど、一定の成果を挙げました。

もっとも、助成制度は未だに実現されておらず、肝炎ウイルス検査受検推進等の取り組みについては、国の動きは十分とは言えません。

今回は、医療費助成制度創設に向け議員連盟が結成されるなど請願採択に向け力強いサポート体制が整いつつあります。

そこで、今一度、皆様のお力添えで多くの請願署名を集め、ぜひ、国会請願を採択させたいと考えています。請願署名用紙は既に皆様のお手元に郵送されておりますので、ぜひ、一筆でも多くの署名を集め、出来るだけ4月末までにご返送いただきますようお願いいたします。なお、用紙が足りない方などは担当弁護士までご連絡をお願いします。



～・～ 和解原告より ～・～ 和解原告のコメント（一部抜粋） 富山県40代男性

2014年7月5日朝方、右背中に寝違いのような違和感がありました。そのまま就寝しましたが寝付かれず、約2時間後、トイレに行こうとして、そのまま動けなくなり救急車で病院へ搬送されました。家内に「申し訳ないけど子供たちをたのむ」とだけ残し、手術室に入りました。後に知ることになります。病名は肝がん動脈瘤破裂。5年後の生存率5%のステージ4でした。退院時に「内科的には3年から5年、早くて1年」の宣告を受けました。抗がん剤で延命を図る治療法を説明されました。

仕事に復帰することはできましたが、その後の2ヶ月間の記憶は眠れなかったこと以外一切ありません。気を許すと、涙が自然に流れ落ちましたし、周りに悟られないよう鏡の前で毎朝、笑顔の練習をしていました。

検査を続けながら、9月に入り、思い出を作るため家族旅行を計画し、その日程の2日前に病院に呼ばれ、最悪の結果を想定したところ、先生に「外科的に切れるかもしれません。」と告げられました。そのときに見えた一筋の光に私は涙してしまったのですが、この時の記憶は今でも鮮明に残っています。

今回、私が倒れたことで母親に「関係ないよ」と説明しても、「申し訳なかった」と涙ながらに自分を責めています。母親に責任はありません。「最後は看取ってほしいから」の心のそこから出てくる言葉に返事ができません。母親は手一つで私と弟を育ててくれました。親孝行まだ道半ばです。もしかしたら、親より先に逝くという最大の親不孝をしてしまうかもしれません。こちらこそごめんなさい。

家内においては、私の前では一切涙を流しません。「治ると信じているから」の一点張りです。でも、影では子供と将来の生活に悩んでいることは、容易に推測できます。余命宣告以降、家内が目の前で取り乱していたなら、私は平常でいられませんでした。この場を借りてありがたいと言わせていただきます。

そして心配をかけ続けることごめんなさい。

大学生、高校生の子供たちは、自分の夢をかなえるため一所懸命勉強しています。私に何かあって、その夢をあきらめることがあれば、申し訳ないの一言です。私自体、父親のいないつらさを実感してただけに、家内と子供を同じ境遇にすることは耐えられません。私たちと同じ思いをする方々が一人でも少なくなるよう国には対応をしていただきたいと思います。



## 第2回・裁判期日後報告会を開催しました！

平成27年2月16日、裁判期日の後に、第2回期日後報告会・交流会を開催しました。交流会には、25名もの原告のみなさんなどにご参加いただき、会場は満員でした。交流会では、弁護団代表、原告団代表のあいさつが行われた後、弁護団事務局長から、その日の裁判期日の報告が行われ、その日の裁判期日では、原告数にして21名（被害者数にして18名）の方の和解が成立したことなどが報告されました。

その後、その日に和解が成立した原告の方が、「給付金は自分には関係ないと思っている人はたくさんいると思います。国の責任でB型肝炎ウィルスに感染したのであれば、国の責任で給付金について広報し、多くの人を救済してもらいたいと思います。」などと和解に当たってのコメントを述べられ、また、弁護団の谷口央弁護士から、ウィルス性肝硬変・肝がん患者への医療費助成制度の創設に向けて、①署名活動、②地方議会への意見書採択の働きかけ、③サポート集会の開催等の活動を行っていくことが報告されました。

そして、約1時間にわたり、当日ご参加いただいた原告のみなさんなどお互いに自由にお話をいただき、交流を図っていただきました。原告のみなさんは、それぞれ、自分の病気のことや病院のことなど様々なこととお話しされていました。

今後も裁判期日後には、期日後報告会・交流会を開催いたします。ぜひ、裁判を傍聴していただき、期日報告会・交流会にご参加ください！



## 肝炎・がん患者の方々などに対する就労支援制度があります！

### 肝炎・がん等で長期療養しながら、働きたいという方へ

ハローワーク金沢・福井では、肝炎・がん等で長期療養を余儀なくされている患者さんための専用就労相談窓口を設置しています。就職支援ナビゲーターが、症状や通院状況に応じて、マンツーマンで就職を支援してくれます。ハローワーク金沢では、金沢大学附属病院での出張相談も実施しています。詳しくは、下図をご覧ください、さらに詳しい情報は『長期療養等就職支援』で検索するか、最寄りのハローワーク等にお問い合わせ下さい！

なお、富山県には、長期療養者のための専用窓口はありませんが「長期療養者の個別事情に応じた就職支援相談はできる！」ということですので、最寄りのハローワークにご相談下さい。

### 就労支援相談

肝炎・がん等の長期療養しながら、  
働きたい方へ

- ・通院の必要があるが、働きたい。
- ・自分の病状、体力にあった仕事を見つけない。
- ・治療と仕事の両立の仕方について教えて欲しい。
- ・しばらくぶりに仕事に戻ることに不安を解消したい。
- ・就職活動で、会社に病気の事を伝えるべきか…。
- ・仕事復帰に、どんなスキルが必要なの？

### 就労を支援したい！！ 事業者様の募集

- ・就労について、通院治療等にご理解のある事業者。
- ・病気への理解をして頂ける事業者。

ハローワーク金沢・福井へ

- ・【長期療養の事業者登録希望】と電話連絡で応募
- ・金沢・福井以外の事業者様でも、各市区町村の公共職業安定所に登録されます。

### ハローワーク金沢・福井では[就職支援ナビ]を設置

- ・症状、通院状況に配慮した求人を探します。
- ・仕事の復帰の不安解消のための相談に応じます。
- ・応募書類の作成や面接の受け方についてアドバイスします。
- ・職業訓練や就職支援セミナーなどをご紹介します。

※富山県には専門窓口はありませんが、最寄りのハローワークで相談に応じます。

### 金沢大学附属病院での出張相談のご案内

- ・日時：毎月第3木曜日 14：00から16：00
- ・場所：金沢大学附属病院 外来棟2階内科外来[出張相談コーナー]
- ・予約：ハローワーク金沢に電話で[長期療養支援の相談]と予約の上でご利用ください。  
予約電話076-253-3032 担当：専（せん）様



## 肝硬変・肝がん除斥問題に関する基本合意書（その2）が締結されました！

平成27年3月27日午前9時30分、札幌地方裁判所民事第5和解室において、基本合意書（その2）の調印式が行われました。原告、家族及び弁護士が約25人集まる中、塩崎恭久厚生労働大臣が署名した基本合意書（その2）（大臣は出頭せず、国の代理人である訟務検事が持参していました。）に原告団代表の田中義信氏と弁護団代表の佐藤哲之弁護士が署名・押印し、無事、調印は終了しました。

この基本合意書（その2）は、死亡又は肝がん・肝硬変（重度）及び肝硬変（軽度）の発症から20年を経過した方の和解条件等を定めたものです。

大まかな和解条件の内容は、①死亡、肝がん又は肝硬変（重度）の方には900万円、②肝硬変（軽度）の状態がかつ「現に治療を受けている」方には600万円、③肝硬変（軽度）の状態がかつ上記②に該当しない方には300万円をそれぞれ支払うというものです。

平成23年6月28日に締結された基本合意書では、上記①～③の方についての和解条件が定められていなかったため、該当する方に救済の道が開かれていませんでしたが、今回の調印により、空白となっていた部分に関する和解条件が新たに定められ、上記①～③の方に救済の道が開かれたのです。

ただ、基本合意書（その2）に定められた条件については、20年を経過していない方の条件と差が大きいため、原告団・弁護団内でも賛否両論があり、この条件で合意すべきかどうかについてなかなか結論が出ませんでした。しかし、患者の早期救済を図る利益などを重視し、今回、基本合意書（その2）を調印するに至ったのです。なお、原告団・弁護団は、20年を経過していない方と同じ条件での和解を希望される方の利益を奪わないため、基本合意書（その2）の条件で和解せずに裁判で争う余地を残すように国に対して求めました。その結果、国は、20年を経過していない方と同じ条件での和解を求めて主張立証することを制限しないと約束しました。

また、基本合意書（その2）では、多中心性発生による肝がん（過去に発症した肝がんの根治後における非がん部（治療後の残存肝）から発症した新しい肝細胞がん）の場合について、除斥期間の起算点を肝がんが再発した時期とすることも明示されました。

これにより、20年以上前に肝がんを患い、その後、20年以内に肝がんが再発した方について、満額である3600万円で和解することが可能になりました。

調印式の後に行われた和解期日には、24年前に肝がんを発症し、その後3回にわたって肝がんが再発してしまったという原告が出廷されていました。この日、国と和解したこの方が基本合意書（その2）に基づいて国と和解する第1号の原告となりました。

和解期日後、札幌弁護士会館内において記者会見が行われましたが、その場において、田中義信原告団代表は、裁判はもちろんのこと医療費助成などの恒久対策の実現を求める活動などに一層努力を続ける決意を改めて表明していました。

（弁護士中村万喜夫）



## 提訴を迷っている方へ“特措法”は時限立法！期限内の手続きを！

「相談したけれど、カルテを取り寄せたり、親族に血液検査を受けもらったり手間がかかる」「キャリアだと金額が十分ではない」「裁判にかかる費用が莫大なのは」等さまざまな不安があり、提訴を迷っている方もいらっしゃると思います。

しかし、給付金支給の根拠となる「特定B型肝炎ウイルス感染者給付金等の支給に関する特別措置法」（特措法）は、現時点では【2017年1月12日まで】という期限が設けられています。

例えば、キャリアの方であれば、この期間内に裁判を起こしてキャリアである認定を受けておけば、期間経過後に慢性肝炎等を発症したとしても、発症

した病態に応じた給付金を受けることができます。

しかし特措法期限内に裁判を起こさなかった場合は、将来、慢性肝炎等の病態が悪化しても、現在と同じ補償を必ず受けられる保証はありません。

キャリアや慢性肝炎の方も将来、肝硬変、肝がんを発症する可能性は否定できません。給付金が支給されるまで、弁護士費用もかかりません。

訴訟するのは「今でしょ！！」と、ぜひ一步を踏み出してください（ちょっと古いかも（笑））。

全国で同じ原告の仲間が1万4000人以上、北陸でも300名以上いますので、お気軽に悩みをご相談ください！

## 今後の主なスケジュール



### 【 裁判期日 】

日 時：次回 4月27日(月)午後1時半～  
次々回 7月6日(月)午後1時半～

場 所：金沢地方裁判所 202号法廷

### 裁判期日後には報告・交流会を開催します

## 北陸弁護団ホームページ・メーリングリストのご案内



北陸弁護団では、北陸弁護団ホームページを開設し、随時、北陸原告団・弁護団の活動状況や北陸訴訟の状況等について情報提供を行っています。また、このホームページには、提訴をお考えの方のために、メール相談窓口が設置されています。ぜひ、「B型肝炎 北陸」で検索して、ホームページをご覧ください！

また、北陸原告団では、原告専用メーリングリストを開設して、原告同士の情報交換や北陸弁護団からの情報提供等に利用しています。メーリングリストへの登録をご希望の原告の方は、担当弁護士までお問い合わせください。

※容量の大きなデータがメーリングリストに流れる場合がありますので、携帯電話で受信される場合はご注意ください。



ホームページ URL <http://bkan-hokuriku.info/>  
又は「B型肝炎 北陸」で検索してください

## 編集者だより



オール北陸肝炎サポート大集会を無事に終える事ができ、ご協力頂いた議員の先生方や関係機関、原告団・弁護団の方々に感謝いたします。

北陸らしい、ほっこりとした雰囲気の中で、予想を超える方々にお越し頂き、おかげさまで会場も満席になりました。誠にありがとうございました。

また、私は、AKS北陸からAKS中四国（開催地：山口県）へ、北陸で集めたオレンジフラッグを加えて、オレンジフラッグを引き継いできたのですが、そこでも沢山の仲間が集まっていました。みなさん一見元気な様子でしたが、お話をお聞きすると人生の苦悩に涙がでました。それでも、「この活動をすることで活力がでた。」「仲間が出来た。」「病気への不安が和らいだ。」とのお話をお聞きすることができ、病気と人生の先輩からまた活力を頂きました。

このオレンジ通信を通して、さまざまな情報をこれからも発信していきますので、よろしくお願いいたします。  
（北陸原告団代表 川上ゆきえ）

### ■B型肝炎訴訟の提訴者数・和解者数

（2015（平成27）年3月2現在）

【全国】提訴者数 14,826人（被害者数 13,619人）

和解者数 10,069人（被害者数 9,104人）

【北陸】提訴者数 337名（被害者数 297名）

和解者数 222名（被害者数 191名）